

小さな国の大きな自然

山縣住雄

私は、平成24年（2012）の1月から3年間、首都のサンサルバドルの柔道連盟に所属して柔道の指導を行いました。

ボランティア活動や海外での長期間の生活は初めてでしたので、見るもの聞くもの総てが新鮮でした。これから始まる海外生活に少し緊張しながら、エルサルバドルの空港に着きましたが、何故か日本に帰ったような不思議な気持ちになったのを覚えています。何となく風景や雰囲気が日本的だったのです。空港が、日本の援助で作られた為に建物自体が日本的なのだと後から知りました。

エルサルバドルでの生活は、語学研修の為にスチチトトから始まりました。そこは、白い小さな教会を中心に町が広がるラテンアメリカの典型的な地方都市でした。語学研修の実践は日常の買い物です。総てスペイン語で話すのですが、私は片言しか話せないのが、現地の人々の早い喋りに全くついていけません。野菜や果物など初めて見るものが多く、しかも料理方法なども分かりませんでした。料金の計算に戸惑ったり、お釣りをもらうのを忘れてもりましたが、店のおばさんは、お釣りの計算や果物の選び方などを親切に教えてくれました。私が、安いスイカに惚れて毎回買っていたので、スイカの大好きな日本人くらいに思っていたのかもしれませんが。

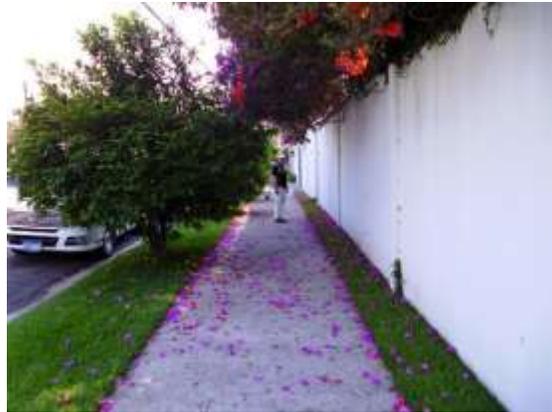


ボランティア活動は、サンサルバドル市内にある柔道連盟傘下の道場を回りながら、大人から子供までの幅広い柔道家を対象に指導を行いました。私のカウンターパートは、忙しくて一緒に活動



出来ないとのことでした。その代わりに、若い柔道の先生が、私の活動の細々した打ち合わせや調整、車での送り迎えをしてくれました。活動の全期間を通じて全く支障はありませんでした。その先生のお蔭で楽しく充実した3年間を過ごすことが出来たことを感謝しています。でも、そこは中南米の国ですから車の故障、交通事故やバンパーが外れるなどのちょっとしたトラブルはありました。

エルサルバドルは、四国位の小さな国なのですが、自然は大きく素晴らしいです。特に、バナナを始め果物の種類の多さは格別です。果物好きの私には天国でした。私達は、比較的安全なヒッポドロモ地区に住んでいました。家の周りは、南国のトロピカルな木々と花が一杯ありました。それに、オウムやペリコ、カラフルな小鳥が近くを飛び交う環境でした。



首都での生活は、治安の関係で買い物のルートが少しずつ変える必要がありました。これも毎回違う道を通ることになり、変化という楽しみがありました。白く塗られた街路樹、庭からはみ出した綺麗な花や観葉植物に逢うことが出来ましたし、交差点の守りを固めるカラフルなトカゲが何時も出てきて挨拶をしてくれました。街路樹には、マンゴーやアボガドが無造作になっていて、その幾つかは道端に落ちていました。こうなると水道管が破れて、道路に流れ出しているも清水の湧き



だす小川のようにも思えてきます。雨季に毎日やってくる夕立も風情を感じていました。突然降り出した雨に、雨宿りの為に入った小さなホテルの警備員のおじさんと写真を撮ったり、道端のお菓子売りのおばさんから、日本では見たことのない菓子を買ったりしましたが、みんな突然の出来事でした。それに交差点は出店の場所でした。ある時、ヤギを繋いで休んでいる人がいました。運転中の先生に聞いて

みるとヤギの乳を売っているとの事でした。いくら新鮮でも直接コップに注ぐのはやり過ぎだと思って眺めていたら、飲みたいでしょうがお腹を壊すので止めた方が良いと言われてしまいました。

年末になると、主要な交差点には臨時の花火屋さんが出来ます。通勤帰りの人を狙って商売をするのだと簡単に考えていましたが、花火の上げ方が日本とはまるで違っていました。クリスマス前後や年末年始には、町中で花火が上がるのです。公園や道路ならまだしもアパートのベランダからも打ち上げられます。日本の洗練された綺麗な花火も良いのですが、街中から2時間近く思い思い



に打ち上げられる花火は壮観です。翌朝は、アパート前の道路は雪が降ったように花火の残骸の新聞紙などで埋め尽くされます。実際、初めて見た時には雪かと思いました。何時何処から花火が上がり始めるか分からない感覚は、喧しいのを乗り越えて楽しみが倍増でした。その時には、消防車も大忙しのように、ニュースには火事と子供の火傷のことが流れます。街全体がある一瞬に向けて進んでいるようでした。私は、1月の帰国でしたので、正月に近所のホテルから最後の花火大会を満喫して帰ることが出来ました。ベランダから花火を上げる無法者も目撃できました。

行き当たりバッタリなのになぜか纏めてしまう行動力、治安の悪さなど微塵も感じさせない勤勉で真面目な明るい人々、国の置かれている環境は全く違うのに中米の日本と言われる所以が、エルサルバドルに生活をして分かります。エルサルバドル国内のどこからも独立峰の火山を見ることが出来ます。日本人にとっては、富士山に見守られているような安心感が得られる風景です。あの空港に着いた時、日本に帰ったと感じさせた雰囲気は、建物や道路の作りなどではない、富士山に似た火山の麓に住む人々の営みを感じての感情だったと思っています。活動を終えて随分経ちましたが、今も柔道を通じて何が出来たのか、もっと効果的な方法は無かったのかなどと思い続けています。柔道の練習を通じて知り合った人たちとは、今も細々と連絡を取り合っています。もう一度、大きな自然の中のエルサルバドルを訪れたいと思っています。



山縣 住雄（やまがた すみお）氏

2012~2015年シニアボランティアとしてエルサルバドルの柔道連盟に所属、サンサルバドルを拠点に柔道を指導、その後、2017~2019年アルゼンチンの首都圏柔道連盟で柔道を指導した。活動終了後は、趣味の農業の傍ら柔道クラブで子供達に柔道指導、活動国の柔道家の来日の際には、講道館などで技術習得の手伝いをしている。